# 平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

| （整理番号）<br>403<br>※記入不要 | 提案機関名 | 自然環境保全センター自然保護公園部 |
|---|---|---|

**要望問題**
丹沢山地における夏期のニホンジカ生息密度推定手法の開発

**要望問題の内容**　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

＜背景＞
本県では、ニホンジカ保護管理事業を実施しているが、事業推進の基礎資料となる生息密度、生息数の推定にあたっては、比較的調査結果の誤差が少なくなる冬期の調査データを基に算出している。しかしながら、最近の調査結果から、山麓部を中心に夏期と冬期で行動圏の異なる個体の存在が確認されており、適正な保護管理のためには、夏期の生息状況の把握が必要となっている。

＜内容＞
丹沢山地における夏期の生息密度推定手法の開発

＜対象地域及び規模（面積、数量等）＞
丹沢大山地域

| | |
|---|---|
| 解決希望年限 | ①１年以内　**②２～３年以内**　③４～５年以内　④５～１０年以内 |
| 研究対応区分 | **①研究所対応**　②委託研究　③共同研究　④その他 |
| 対応を希望する研究機関名 | ①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ）<br>⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ）<br>**⑨自然環境保全センター** |

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

| | |
|---|---|
| 回答機関名 | 自然環境保全センター |
| 部　　署： | 森林保全グループ |
| 対応区分 | ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 **⑦実施不可** |
| 試験研究課題名 | （①、②、④の場合） |

**対応の内容等**

直接推定法による方法は、地形が複雑で見通しの悪い場所がほとんどの丹沢山地では、夏場の密度推定には不向きと考えられる。糞粒あるいは糞塊を用いた間接推定法も、消失が早く精度の高い推定は難しい。このため、現段階では、夏期に一定の精度でシカ生息密度を推定する方法はないと思われる。

| | |
|---|---|
| 解決予定年限 | ①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内 |
| 備　考 | |